

表彰

◆令和7年農林業センサス功績者

農林水産大臣表彰
桐元 一成さん（西屋代）



◆令和7年全国社会教育委員連合表彰

河原 光雄さん（小松）
（周防大島町社会教育委員 議長）



島の「日常」は街の「非日常」



旅先に求められるニーズとして、癒しや楽しみに続いて「非日常」というキーワードが上がってきます。

今では観光や旅行は身近なレジャーのひとつであり、インターネットを介せば世界中の情景が目に入る現代において、旅先で体験する「非日常」の意味合いも変わりつつあるようです。

では具体的に旅行における「非日常」とは、どのような体験を指すのでしょうか？

ある旅行会社のアンケート調査では、男性は仕事、女性は家事など、日々の忙しさから解放された瞬間に「非日常」を感じるという回答が多くあがったそうです。

例えば都市や街にはカフェが溢れていますが、仕事や勉強での利用が散見されます。旅先にあるカフェは趣が異なるようで、瀬戸内の多島海を眺めながらカフェでくつろぐ時間は、同じカフェでも日々の忙しさから解放してくれることでしょう。

道の駅サザンセットとうわの沖に浮かぶ真宮島は、瀬戸内海の300cmを超える干満差により、干潮時に繋がる砂州の道（トンボロ）で島から島に渡れます。また、片添ヶ浜など周防大島の南東部からは、海の向こうに愛媛県松山市の街並みや四国山地を一望できます。さらに信号や交差点の少ない国道・県道はドライブ・ツーリング・サイクリングには最適な環境です。

これら周防大島における日々の当たり前が、都市や街で暮らす人たちにとっては大いに魅力的な

「非日常」なのかもしれません。

近頃はインターネットで旅行先を選ぶ際に、文字情報によるキーワード検索の他、グルメや風景などの画像や動画情報で旅行先を決めることが増えているそうです。これに伴い、旅行先を決めてからグルメや観光コースを検討する時代から、美味しそうな食べ物や魅力的な風景などをSNSで見つけて旅行先を決める時代に移り変わろうとしています。

今後は「どこへ行くか」ではなく「何をするか」が重要になるため、周防大島の穏やかな日常が魅力的な「非日常」として映る動画を配信することで、これまで以上に街と島を繋ぐことができるように思います。

●真宮島へ繋がる砂州の道（トンボロ）



問い合わせ 周防大島観光協会 ☎ 0820-72-2134